

# らっきょう

らっきょうは中国が原産とされるネギ科の植物で、主にふくらんだ鱗茎部分を食用とします。様々な薬効を持ち、日本には平安時代に伝わったとされていますが、当時はあくまでも薬用として用いられていたようです。

## 7月の農作業

平成15年発行：  
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

### 作型

耐寒性が強く、やせ地でも栽培できる。暑さには弱く、夏になると休眠に入る。翌年の6月に収穫する普通栽培の他、翌々年の8月に収穫する花らっきょう栽培、当年の11月～4月に収穫するエシャロット栽培がある。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 植 え						■	■		△	△			大玉：らくだ 中玉：八房 小玉：玉らっきょう

△：植え付け ■：収穫

### 畑の準備・定植

<b>土づくり a当たり</b>	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	15kg
植え付け15日前頃に土と良く混合	
<b>元肥 a当たり</b>	
油粕	20kg
畝立時施用	

- 畝幅80cm
- 株間10cm  
(2条植、条間30cm)

### 植え付け

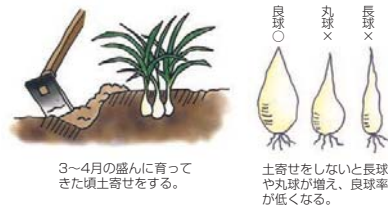
- 植え溝を掘り種球をタテに挿し込む。
- 大球づくりは、1球でやや深植え。
- 小球づくりは、3球でやや浅植え。



大球づくりは、1球でやや深植え。 小球づくりは、3球でやや浅植え。

### 土寄せ・除草・追肥

- 3～4月の盛んに育ってきた頃、除草を兼ね土寄せを行う。
- やせ地でも良くできるので、通常追肥しなくても良いが、あまりにも葉色が薄いようなら3月頃追肥する。(野菜専用肥料1～2kg/a)



3～4月の盛んに育ってきた頃土寄せをする。

土寄せをしないと長球や丸球が増え、長球率が低くなる。

### 収穫

- 葉がほとんど枯れた頃、球根を傷付けないように掘り取る。



### 防除

病 害 虫 名	薬 剤	防 除
アザミウマ類	スミチオン乳剤	1,000倍 14日前まで 2回以内
ハモグリバエ類	ブレバソフフロアブル5	2,000倍 3日前まで 3回以内

裏面は雑草図鑑 ミズアオイ・アオビユを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.315 平成29年7月19日発行

# 雑草図鑑

## ミズアオイ・アオビユ

## 7月の農作業

### ミズアオイ

沼や溝の浅いところや水田に発生する一年草で、コナギより全体が大型。葉柄は20cm以内と長い、茎・葉の柄は短い。8～10月に青紫色の花をつける。コナギと姿がよく似ているので、しばしば本種と間違えられます。コナギの場合には全体に小型で、花序は葉より低いか同じぐらいの高さまでにしかならず、花が小さく、花数も少ないという違いがあります。ミズアオイは花茎が少なく大きく、草丈は40～100cm。花茎がまっすぐに立ち上がって葉の上に出るので区別できます。



水田の中のミズアオイ

### 防除のポイント

移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を刈取り後に散布する。残草が見られる場合は、ホルモン系の除草剤を散布すると大きくなった雑草も防除できる。



ミズアオイの花

### アオビユ

熱帯アメリカ原産の帰化植物で、畑地、道端、空き地などに生育し、特に牧場や農家の堆肥置場などに多い。茎は直立し、高さ1メートル以内で葉は互生し、長い柄があり、卵形～ひし形で先端はわずかにへこむ。7～10月に長い花穂をつける。アオゲイトウに似るが、穂が細長い点で区別できる。イヌビユにもよく似ていて、穂状の花序がやや細いこと、葉先が円頭もしくは凹頭でも大きく凹まないのが違いとされている。土中の種子は5年経過した後もかなり生存しており、寿命は比較的に長い。



アオビユ (生育後期)

### 防除のポイント

発生前に土壌処理剤で防除する。発生してしまった場合は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を作物に掛からないように散布する。



アオビユ (花穂)

アオビユ (生育中期)

裏面はらっきょうを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.315 平成29年7月19日発行